

職人として生きていくための能力を身につける

—違いが分かる目を養い、自ら考え技能を習得していくために—

東京左官技能者育成協会

東京左官技能者育成協会(略:東左育/原田宗亮代表)は、伝統の左官技術を継承し、次世代へと繋げることが目的に、平成26年に発足。東京の左官会社を中心に発足時は6社でスタートし、その後新たに2社が加わり、現在は8社で活動している。新人職人研修では現役職人の指導のもと1ヵ月間左官の基礎を学び、建築の基礎知識や職人として生きていく土台を心身共に身につけていく。また、同会が実施する職業訓練は普通職業訓練短期課程左官課として、東京都から正式に認定されている。

今回、研修を受ける新人職人は(有)原田左官工業所、西谷工業(株)、(株)信和工芸、(株)ワイズファクトリー、(有)久保技建の計5社から7名が参加する。

本稿では、東左育の研修の様子を紹介する。(編集部)

左官の基礎を学ぶ

西谷工業株式会社本社研修室にて4月1日(木)より24日(金)までの18日間、東左育の令和8年度9期生新人教育が開催された。

カリキュラムでは左官の基本技能である塗り壁を塗るための技をモデリング技術を活用して習得するほか、石膏飾り・漆喰塗り、土間定木ずり、ブロック積といった基本的な作業を網羅。特別教育として、足場の組立て等作業従事者、第2種酸欠作業、フルハーネス、丸のこ等取扱作業、自由研削砥石、高所作業車運転者、低圧電気取扱者などの専門分野についても座学と実技を織り交ぜながら学習を行う。また、原田左官工業所での実習では「顔料と塗料を使う左官」と題し、左官でさまざまなテクスチャーを表現する講義も行われた。

研修会7日目に、北海道左官業組合連合会など新人教育の視察を終えた代表講師の久保憲史氏(有)久保技建)による



▲原田校長と久保講師



▲講義のようす(円内:講義する久保講師)

「働くということー左官という仕事」という講義が行われた。講義では建設業界における左官工事の役割と仕事内容について、左官業の現状、左官職人の年齢構成などを説明。久保氏は「左官という仕事は建設業には無くてはならない仕事であるにも関わらず、10代と20代の就業人数は極めて少ない。就業比率が最も多い世代は5年後、10年後には引退してしまうことを考えると、将来的には職人がいなくなることが容易に想像できる。今後も建築物が建設され続けることを考えたら、君たちの需要と処遇は良くな